

JOMF 派遣医師便り (2013. 4)

◆マニラ◆

素敵な人にお会いしました

マニラ日本人会診療所

菊地宏久

身体障害という言葉から皆さんはどのようなイメージをいだかれますか？先日、フィリピン人女性で生まれながらにして身体に障害のある女性にお会いしました。この方はとても明るく、素敵な人でしたので紹介します。

この方は、「パソコンが壊れたので皆にメールの返事ができない、何らかの対応ができないものか」と友人である私の妻に電話をしてきました。

妻と二人でさっそくその方のお家にお伺いしました。ベッドに横になっていた彼女は、不自由な腕と手を差し出して握手をしてあいさつしました。カラフルなカーテンのかかった細長い部屋にはとてもかわいい十代の息子さんが一緒にいました。

パソコンのキーボードが打てるのであれば当然指が動くもの、と私は思い込んでいました。ところがお会いしたところ、両腕と手は短く、手の指もかろうじて動いている状態です。他にも先天的な障害もあるため、目に見えない努力の上にキーボードを打たれているのだと思います。

その方はご自分に障害があるにもかかわらず、他の身障者のアーティストと共にバッグやジープニーの模型を売りながら彼らの自立支援を積極的に行っているのです。また彼らの通院のために担当医師や病院と連絡を取ったり、交通手段の確保なども行っています。その自立支援活動のためにパソコンでのメール送信がどうしても必要だったのです。

「自分がこの活動をすることは神が自分に与えてくれたミッションなのだ」と明るくしっかりと声で話していました。さらに、「その活動ができることをとても幸せだ」と誇らしげに話していました。

ご自分に障害がありながら、他の障害者の支援をしている素敵な女性を紹介させていただきました。

彼女の未来にエールを送ります！